

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 5 区分

【発行日】平成25年10月10日 (2013.10.10)

【公開番号】特開2012-97380(P2012-97380A)

【公開日】平成24年5月24日 (2012.5.24)

【年通号数】公開・登録公報2012-020

【出願番号】特願2010-247354(P2010-247354)

【国際特許分類】

D 0 1 F 6/00 (2006.01)

D 0 1 D 5/253 (2006.01)

A 4 1 D 31/00 (2006.01)

A 4 1 D 31/02 (2006.01)

【F I】

D 0 1 F 6/00 A

D 0 1 D 5/253

A 4 1 D 31/00 B

A 4 1 D 31/00 5 0 1 Z

A 4 1 D 31/00 5 0 2 L

A 4 1 D 31/00 5 0 3 E

A 4 1 D 31/02 E

【手続補正書】

【提出日】平成25年8月28日 (2013.8.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 2】

前記短繊維において、繊維径が細すぎるとフィンのサイズが小さくなり、スパイラル捲縮が発現しにくくなる。一方、繊維径が太すぎると、単繊維当たりの自重によりスパイラル捲縮が発現しにくくなる。このため、捲縮を付与する点では、繊維径が 10 ~ 200 μ m の範囲が可能であるが、より捲縮を発現させるためには 15 ~ 95 μ m の範囲がより好ましい。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 6】

本発明における繊維充填率は 30 ~ 80 % である事が好ましく、40 ~ 60 % である事が更に好ましい。30 % 未満では、繊維としては高空隙を有しているものの、不織布製造工程通過時に断面潰れ等が生じる為、好ましくない。一方、80 % を越えると、改善効果が小さい繊維構造体しか得られない為、好ましくない。なお繊維充填率は下記式で表される。

繊維充填率 (%) = (C / D) × 100

C ; 繊維軸に直交する断面面積

D ; 繊維軸に直交する最外周円の面積